

1. 部門目標

- ・手術の質の向上と手術件数の増加を目指す。

2. 診療体制、スタッフ

外来は、月曜から金曜まで週 5 日で、午後には、特殊外来として、胆石ヘルニア外来、肛門外来、乳腺外来を開設している。手術は週 5 日（月～金曜日の午前，午後）である。毎週火、水、土曜日は千葉市夜間外科系救急 2 次、ならびに月 1 回、外科系休日 2 次を担当しており、麻酔科の先生方、手術部および外来スタッフの協力のもと、千葉市の外科系救急医療を担っています。

平成 30 年度のスタッフは、吉岡茂医師、塩原正之医師、若月一雄医師、小笠原猛医師、須田浩介医師、宮澤康太郎医師、相田俊明医師、三好哲太郎医師、出張医佐藤俊介医師の 9 名です。

3 診療実績

〔手術実績〕

術式	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
食道癌手術	2	1	1	1
良性疾患食道手術	0	0	0	0
胃癌・胃切除術	35	31	30	24
胃癌・胃全摘術	7	5	12	11
（胃癌・腹腔鏡下胃切除術（LADG）※重複）	25	（19）	（24）	（16）
良性疾患胃手術	0	0	2	2
胃・十二指腸穿孔・出血手術	7	7	6	3
胃腸吻合術	2	1	4	3
腹腔鏡下胆嚢摘出術	141	113	106	108
開腹胆嚢摘出術	4	5	4	15
（胆嚢癌・胆管癌手術 ※重複）	6	（4）	（4）	（1）
総胆管拡張症・合流異常手術	0	0	0	0
肝切除術	14	11	7	9
膵頭十二指腸切除術	6	3	4	5
膵全摘術	0	1	0	0
膵体尾部切除術	2	3	2	3
脾摘出術	1	0	0	0
小腸切除術	5	5	3	3
結腸癌・結腸切除術	66	62	74	82
（結腸癌・腹腔鏡下結腸切除術（LAC）※重複）	86	（75）	（80）	（67）
良性疾患結腸切除術	7	7	2	0

直腸癌・低位前方切除術	25	15	25	25
直腸癌・超低位前方切除術（内肛門括約筋切除術を含む）	4	2	1	
直腸癌・直腸切断術	2	1	4	3
骨盤内臓全摘術	0	1	1	0
虫垂切除術	64	64	62	65
（腹腔鏡下虫垂切除術(LAA) ※重複）	64	(64)	(62)	(65)
人工肛門造設・閉鎖術	29	16	17	21
肛門手術	18	19	20	18
ヘルニア根治術	191	168	181	167
腹腔鏡下ヘルニア根治術 重複	106	85	117	110
非定型的乳房切除術	28	27	15	
乳房温存術	79	56	31	73
センチネルリンパ節生検法（局所麻酔下）	13	0	0	0
腸閉塞手術	17	14	11	11
試験開腹・開胸術	2	2	2	0
肺切除術	0	0	0	0
その他（腹膜炎手術など）	78	62	35	34
計	855	723	708	733

4 1年間の経過と今後の目標

平成 24 年は千葉市立病院改革プランにより、青葉病院より外科スタッフ 2 名（塩原正之医師、新井周華医師）が加わった。平成 24 年度の年間手術症例数は 636 例、25 年度は 745 例、26 年度は 786 例、27 年度は 855 例と年々増加傾向であったが、28 年は 723 例と減少し、29 年度は 708 例 30 年度 733 例と横ばい傾向である。

そのうち消化器癌（胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌等）手術症例数は平成 25 年：137 例、平成 26 年：182 例、平成 27 年：162 例、平成 28 年：151 例、平成 29 年 155 例、平成 30 年度：172 例（大腸癌手術例は 107 例と過去最高）であった。また乳癌手術症例数は平成 25 年：52 例、平成 26 年：77 例、平成 27 年：107 例、平成 28 年：83 例、平成 29 年：46 例平成 30 年：73 例であった。当科の特徴としては低侵襲手術である腹腔鏡手術を積極的に導入していることである。また 26 年より乳腺外科が開設された。26 年よりの手術室の増床、手術枠の増加により手術待ち期間も短縮されてきており、現在、消化器癌、乳癌の場合は外来初診から手術日決定まで約 1～2 週間程度である。

また、急性胆嚢炎、胆石症例に対して早期手術をおこなっており、30 年は 108 例に腹腔鏡下胆嚢摘出術をおこなっている。ソケイヘルニアに対しても積極的に腹腔鏡手術を導入しており、ヘルニア症例のうち半数以上におこなっている。

今後手術症例数の増加に向けて、近隣医院よりの紹介患者数を増加させることが必要である。以前より近隣医院よりの依頼は、消化器内科と連携して時間外であっても可能な限り対応しており、引き続き同様の方針でいく予定である。